

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

広陵町立真美ヶ丘第一小学校 藏前 拓也

1 単元名

「平和学習 奈良に帰ってきた三角定規 –まみいち PEACE プロジェクト–」

2 単元の目標

- 戦争や原爆のことについて調べ、戦時中の人々の生活や被害の様子や知り、戦後から現在に至る人々の生活を実現させるためには、さまざまな努力や願いがあったことを、体験や聞き取りなどから見たり聞いたりして理解する。 (知識・技能)
- 戦争や原爆に関わる事象等を調べたことや、平和学習を通して学習したことを基に、平和について考えたことを適切に表現する。 (思考・判断・表現)
- 戦争や原爆に関わる事象について、意欲的に学習に取り組むとともに、身近な平和のために自分にできることを考えることができる。 (主体的に取り組む態度)

4 単元について

○教材について

本単元の平和学習では、奈良から沖縄の戦地に行かれた方の遺品である三角定規が、74年ぶりに遺族のもとへ届いたことが掲載された新聞記事を取り上げる。この記事は、本学級の児童の一人が、夏休みの宿題でノートに貼り付けていたものであった。

三角定規は、太平洋戦争で激しい戦火に見舞われた沖縄県糸満市の豪で見つかった。プラスチック製で、表面にはくぎのようなもので、名前が刻まれていた。この三角定規は、沖縄県で戦没者の遺骨収集に取り組む方が見つけた。沖縄戦の戦没者の名を記す糸満市の平和記念公園にある「平和の礎」に奈良出身の同姓同名の人物の名があり、新聞記者が取材を進めていた。専門家によると、三角定規は射角などの計測のために持っていた可能性があったとされている。

記事の見出しには、「沖縄の豪から74年ぶりに奈良へ」と書かれている。加えて、遺族の方のコメントに、「戦後74年と言うけれど、私には今も終戦はない。戦争で尊い命が奪われ、残った家族は悲しい運命に翻弄されるのだから」と記されている。児童がこのような記事の内容を読むことで、戦争を切実なものとして受け止められると考えた。

修学旅行で行く予定の平和資料館は今年の4月にリニューアルされ、戦没者の遺品にスポットをあて、個々の戦没者がもつストーリーが見える展示がされている。戦地から遺族のもとに帰ってきた三角定規の遺品も、これらと同じようにストーリーがある。児童が資料館に展示されている遺品を見る際、そこに込められた遺族の平和への思いや願いを感じて見学できるようにしたい。そして、戦争の被害は、空襲や原爆による被害だけでなく「戦争によって亡くなられた方のご遺族の思いや願い」にもあることに気付かせたい。そのために、記事に書かれた自分たちが住んでいる奈良にまつわる内容を扱い、戦争を身近にとらえ、平和について考えられるようにしたい。

○児童について

本学級の児童は、夏休みの宿題で、本やインターネット、テレビや新聞などから戦争や原爆

についての事前調べを行い、その内容を平和学習ノートに記録していた。実際に戦争を体験した人や戦争に関係する方から話を聞くことができた児童はごく一部であった。

○指導について

本単元の指導については、修学旅行で広島へ行って行う現地学習の動機付けとなるような展開を
意識する。まず始めに、スライド資料を使って、「修学旅行へ何をしに行くのか」「どうして広島
のか」について話し合う。平和公園にある石碑や施設などを紹介しながら、児童の関心を高めた
い。

次に、奈良から広島に学徒動員されていたことが分かる、広島のパネル博物館にある石碑の写真を
紹介する。社会科の学習内容と合わせて補足し、戦争の被害には、戦時中の人々の暮らしの過酷さ
や
学徒動員等のことも含まれることを押さえる。その後、「奈良にまつわる戦争の被害はどんなもの
があるのだろうか。」と問い、新聞記事を紹介する。

記事を読んで、遺族の方が遺品を手にした時の思いが分かる言葉や記者の方がどのような方法
で
取材したり、遺品を届けたりしたのかに注目させる。そして、疑問に思ったことや詳しく知りた
いと思ったことを発表させ、遺族の方と記者の方に、詳しく話を聞くためにゲストティーチャー
に来てもらうことを児童に打診する。その際、主体的にその機会を設けられるように、自分たち
でアポを取るように伝える。

二人のゲストティーチャーとの出会いをきっかけに、奈良にまつわる戦争のことを知り、戦争
の被害は、空襲や原爆の被害以外にもあることに気づき、もし自分の家族が戦争に行っていたら
と身近にとらえられるようにしたい。

単元の最後には、修学旅行で広島に行って感じたことや平和学習で学んだことを全校に発表す
る活動をする。そうすることで、自分なりに考えた平和を大切に、次の世代につなげようと
する態度や心を育みたい。

3 ESDの観点

① ESDの視点

- 責任性：戦後から現在の生活に至るまでには、様々な人々の努力や願いがあったことを知
り、未来へつなげる平和について考えて行動するためには、努力が必要であるこ
と。
- 連携性：これからの平和な社会や生活の実現に向けて、身近なところから自分たちができる
ことを考え、協力して行動していくことが大切であること。

② ESDの資質・能力

○システムズシンキング

- ・広島、長崎、沖縄、大阪等だけでなく、身近な奈良にも戦争の被害があった。
- ・戦争の被害にあった遺族の方には、様々な思いや願いがあることを知る。

○クリティカルシンキング

- ・空襲や原爆以外の戦争の被害について考える。
- ・戦争がなければ平和なのか、自分なりの平和を構築するために何ができるのかを考える。

○コミュニケーション力

- ・グループ活動、資料まとめ
- ・発表、発信、提案へ

③ ESD で育てたい価値観

○平和学習を通して学んだことを基に、身近なところから自分たちにできることを考え、今後の生活に活かそうとする態度。

④ SDGs の貢献

○目標 16：平和と公正をすべての人に

平和学習を通して、過去の事象を知り、平和とは何なのかを考え、それを実現したり、維持したりするためには、どんな工夫や努力が必要なのかを考えることができる。

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に取り組む態度
①戦争や原爆のことについて、必要な情報を集めたり、聞いたりしたことをまとめている。 ②戦後から現在に至る社会を実現させるためには、さまざまな人々の努力や願いがあったことを理解している。	①戦争や原爆について、調べたことを基に、平和について考え、適切に表現している。 ②平和を実現するために、必要な努力や工夫を自分なりに考え、適切に表現している。	①平和学習で触れる事柄について関心をもち、平和を大切にしようとしている。 ②身近な平和を実現するために、自分にできることを考え、主体的に活動しようとしている。

5 単元計画(全15時間)

段階	主な学習活動	指導上の留意点	評価
	○平和学習ノートの作成、自主学習 ○お家の人へのインタビュー（夏休みの宿題）		
知る	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> 広島と長崎では、いったい何が起こったのだろう。 </div>		
① ②	○修学旅行へ何をしにいくのだろう、どうして広島なのだろうか。 ○なぜ日本で戦争がおこったのだろうか。 ○どんな被害があったのだろうか。	・社会科等の学習と合わせて、資料を提示し、主な事象を知らせる。	
調べる	○広島と長崎以外に戦争の被害を受けた場所はあるのだろうか。沖縄、東京、大阪→奈良でも!？	・鈍鶴峯地下壕 ・広島大仏（安堵町）	
③	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> 奈良にまつわる戦争の被害にはどんなものがあるのだろうか。 </div>		

<p>⑥</p>	<p>○奈良とつながる戦争の事象について調べよう。</p> <p>○家族の遺品を手にした、遺族の方は、どんな気持ちなのだろうか。</p> <p>➡取材をされた記者の方に話を聞く ご遺族の方に話を聞く（ゲストティーチャー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「奈良にも戦争の被害があったんだ!」 ・「遺族の人にとっては、戦争は終わっていない!」 <p>○修学旅行で、戦争のことについて、さらに調べよう。</p> <p>➡修学旅行で広島へ</p> <p>【主な見学先】 平和記念公園、原爆ドーム、原爆の子の像、平和の灯 平和記念資料館、原爆死没者追悼平和祈念館 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良から広島へ学徒動員されたことが分かる石碑を紹介する。 ・毎日新聞の記事を提示し、奈良に帰ってきた三角定規の話に触れる。 	
<p>まとめ ⑦ ⑧ ⑩</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid green; padding: 5px;">自分たちにできることって何だろう。</p> <p>○調べて分かったことや考えたことをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良にまつわる戦争のことについて、知る。 (奈良→広島→奈良) ・自分なりに考えた平和について、子ども平和宣言にまとめる。 <p>○戦争がなかったら平和なのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な平和を実現するために、大切にすることや必要なことを考える。 ・発表→提案→実行→ふり返しへ <p>○グループに分かれて、調べたことをまとめよう。</p> <p>【主な項目】 事前の取り組み、奈良にまつわる戦争の話、佐々木禎子さん、原子爆弾、平和公園、資料館、世界の核兵器 平和の木の作成 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鈍鶴峯地下壕(香芝市) ・広島大仏(安堵町)を紹介する。 ・子ども平和宣言を紹介する。 ・スライドを使って、問題提起をする。 ・まとめ方を確認し、発表など計画や見通しを持たせる。 	
<p>ひろげ ⑭ ⑮</p>	<p>○平和学習発表会を開催しよう。</p> <p>まみいち PEACE プロジェクト発信!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他学年と意見交流 ・平和の木の作成を依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように発表すれば、聞き手に伝わりやすいかを考えさせる。 	

【成果と課題】

○成果

・奈良にまつわる戦争に関する新聞記事や内容を取り上げたことで、自分たちが住んでいる地域からも戦地へ行った人がいたことを知り、戦争を身近なものとして、切実に感じる事ができた。

・遺族の方や記者の方から直接お話を聞くことで、自分たちだけでは知ることのできない遺族の方の思いや願いを知ることができた。また、本格的な取材方法や三角定規が遺族の方へ届くまでの経緯を知ることができた。そして、児童が宿題で切り取っていた新聞記事を活用したり、自分たちで出前授業のアポを取ったりしたことで、主体的に平和学習に取り組む児童が多かった。

・遺品を通して、遺族の方の思いや願いを知ること、戦争の被害は空襲や原爆などだけではないことを考えるきっかけになった。加えて、広島資料館で展示物を見る際の視点や見方を育むことができた。

・自分なりに考えた平和について、全校に発表するためにまとめる活動をすることで、平和を実現するために、大切にしなければならないことや必要なことを考え、実行しようとする態度を養うことができた。

○課題

・平和学習終了後、学んだことを活かして、どのように児童が行動化できているかを見取る方法は設定できていない。3学期に行う学習過程の中から、平和について「自分で考え、判断する」といった態度の成長を評価していきたいと考えている。これは今後の課題とし、これからの実践や指導方法の構築を目指したい。